

【 株主のみなさまへ 】

第 9 期中間事業報告書

平成 12 年 4 月 1 日から平成 12 年 9 月 30 日まで

Nippon Mining & Metals

株主メモ

本 店	東京都港区虎ノ門二丁目 10 番 1 号(〒105-0001)
	電話 (03) 5573-7267(業務総括部門総務担当)
決 算 期	3 月 31 日
定 時 株 主 総 会	6 月
基 準 日	定時株主総会権利行使株主確定 3 月 31 日 株主配当金受領株主確定 3 月 31 日 中間配当金受領株主確定 9 月 30 日
名義書換代理人	中央三井信託銀行株式会社 東京都港区芝三丁目 33 番 1 号
(電話お問合せ・ 郵便物送付先)	中央三井信託銀行株式会社証券代行部 東京都目黒区下目黒六丁目 1 番 21 号(〒153-8602) 電話 (03) 3714-2211(大代表)
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本支店、出張所

 日鉱金属株式会社

 日鉱金属株式会社

株主の皆様におかれましては、ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、当社の事業経営に一方ならぬ御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当上半期におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が見られず、個人消費が低迷を続けたものの、アジア経済の回復、IT関連需要の増加等を受けて、企業収益が改善するとともに、設備投資の増加が続くなど、景気は緩やかな回復を見せました。

当社の主要製品である銅は、前年同期に比べ、国内需要に改善の兆しが見られ、価格は、円高はありましたものの、期後半での国際価格の回復により、上昇いたしました。亜鉛は、鉄鋼、自動車等関連分野の需要が堅調に推移しましたが、価格は円高により低下いたしました。金属加工製品は、移動体通信機器・パソコン等IT関連需要の増加により、好調に推移いたしました。

この間、当社は、生産・販売の強化、事業運営全般にわたる効率化の一層の推進等、鋭意業績の向上に努めました。その結果、前年同期に比べ、当上半期の売上高は7.5%増の1,192億18百万円となり、また営業利益は32.2%増の93億68百万円、経常利益は35.4%増の86億54百万円、中間利益は24.5%増の45億86百万円と大幅な増益となりました。

中間配当については、当上半期の損益状況等を勘案し、前期に比べ1円増配の1株当たり5円とさせていただきます。

当社は、一段と厳しさを増す国際競争の時代を迎え、将来を見据えた経営戦略に基づき、総合的な効率化、営業力の強化・充実、技術革新等をスピーディかつ着実に推進し、非鉄素材事業を核とした国際優良企業を目指しております。

具体的には、まず経営の基本テーマとしている「資源の生産性革新」により、技術的合理性、効率性を極限まで追求し、貴重な金属資源のさらなる有効利用に努めております。主力の銅製錬事業においては、三井金属鉱業株式会社との業務提携を鋭意推進しております。本年10月には、銅製錬事業関連製品の共同販売会社を設立するとともに、次世代に向けた湿式製錬技術開発の共同研究を開始いたしました。また、両社の共同出資先であるLG・ニッコー・カッパー株式会社との有機的提携をも図る



代表取締役会長 坂本 卓
代表取締役社長 賀川 鐵一

予定であります。もう一つの柱である金属加工事業においては、電子部品の一段の小型化・低価格化ニーズ並びにITの急速な成長に伴う需要の変化に対応して、製品の「薄物(箔)・高性能化」の技術開発を推進しております。そしてこれらの事業展開に加え、グループとしての経営計画の策定や営業戦略の企画・立案、さらには共通業務の共用化・集約化等を積極的に推進し、当社グループ全体の事業競争力を一段と高めてまいります。

株主の皆様には、引き続き一層の御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役会長

代表取締役社長

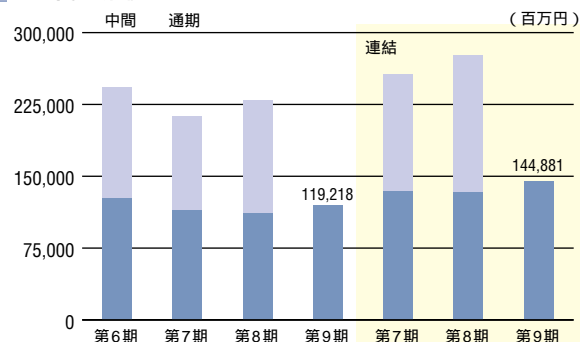
坂本 卓 賀川 鐵一

主要財務数値

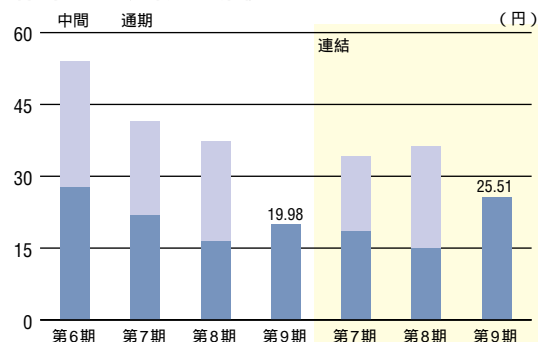
	(個別)			
	第6期中間 (平成9年度)	第7期中間 (平成10年度)	第8期中間 (平成11年度)	第9期中間 (平成12年度)
売上高(百万円)	126,999	114,387	110,895	119,218
営業利益(百万円)	11,929	9,153	7,088	9,368
経常利益(百万円)	10,637	7,849	6,393	8,654
中間純利益(百万円)	5,551	4,541	3,683	4,586
1株当たりの中間純利益(円)	27.76	21.84	16.31	19.98
総資産(百万円)	250,112	251,171	255,040	250,063
株主資本(百万円)	41,925	63,092	69,036	77,087

	(連結)		
	第7期中間連結 (平成10年度)	第8期中間連結 (平成11年度)	第9期中間連結 (平成12年度)
売上高(百万円)	134,105	133,109	144,881
営業利益(百万円)	11,295	8,006	10,524
経常利益(百万円)	8,425	6,326	11,364
中間純利益(百万円)	3,827	3,361	5,855
1株当たりの中間純利益(円)	18.41	14.88	25.51
総資産(百万円)	298,345	302,890	315,935
株主資本(百万円)	76,629	81,783	89,213

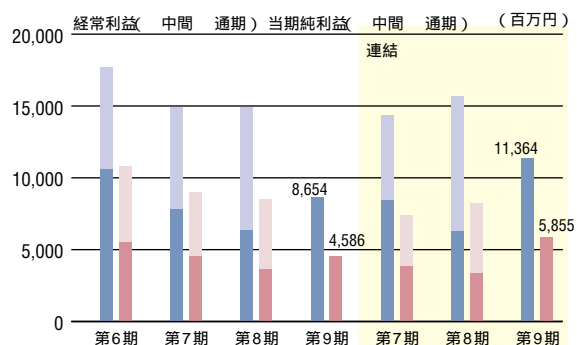
売上高の推移



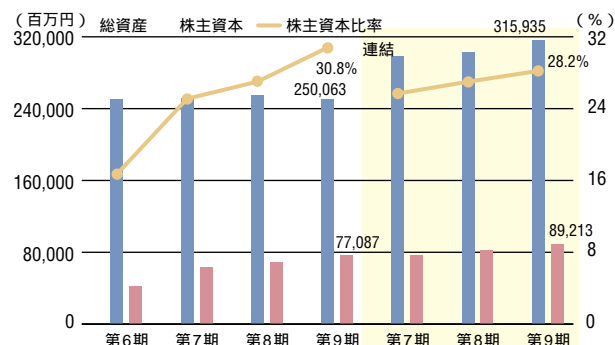
1株当たりの純利益の推移



利益の推移



資産状況の推移



事業内容（個別）

■ 事業の種類別セグメント情報（個別）

（自 平成12年4月1日 至 平成12年9月30日）

（単位：百万円）

	製錬事業部門		加工事業部門		環境リサイクル事業部門	計	本社部門費等 (内内部売上高)	合計
	銅製錬事業	亜鉛製錬事業	金属加工事業	精密加工事業				
売上高	85,668	8,560	23,333	2,059	14,213	133,834	14,616	119,218
営業損益	4,911	1,051	4,594	314	476	11,346	1,977	9,368
減価償却費	2,286	22	1,131	82	241	3,764	85	3,850
設備投資額	853	—	639	163	213	1,869	689	2,558

製錬事業部門

製錬事業部門の売上高は、前年同期比7.3%増の942億28百万円となり、営業利益は、前年同期比26.4%増の59億62百万円となりました。

■ 銅製錬事業

主要製品は、電気銅、硫酸並びに金・銀等の貴金属であります。

当上半期における電気銅生産量は、前年同期比4.5%増の21万9,759トンとなりました。販売量は、主要需要先の電線業界向けに回復の兆しが見られたことや、伸銅業界向けが堅調に推移したこと等により、前年同期比2.6%増の22万1,990トンとなりました。価格は、円高はありましたが、期後半に国際価格が上昇に転じたため、期平均ではトン当たり20万7千円と前年同期に比べ1万2千円上昇いたしました。

硫酸は、国内販売量は増加しましたが、輸出の減少により総体としては減販となりました。

金及び銀は、貴金属・レアメタル回収設備の順調な操業を背景に、販売量はそれぞれ前年同期比7.6%増の15.7トン、18.6%増の179トンとなりました。価格は、円高により、金・銀ともに前年同期に比べ下落いたしました。

これらにより、銅製錬事業の売上高は、前年同期比9.1%増の856億68百万円となりました。

■ 亜鉛製錬事業

主要製品は、亜鉛並びにインジウム等のレアメタルであります。

亜鉛の販売量は、鉄鋼、自動車、住宅関連等の国内向けは増加しましたが、輸出の減少により、前年同期比5.0%減の5万1,084トンとなりました。販売価格は、国際価格は上昇しましたが、円高により、期平均で14万4千円と、前年同期に比べ、2千円低下いたしました。

これらにより、亜鉛製錬事業の売上高は、前年同期比8.0%減の85億60百万円となりました。

加工事業部門

加工事業部門の売上高は、前年同期比7.2%増の253億93百万円となり、営業利益は49億7百万円と、前年同期比21.0%増となりました。

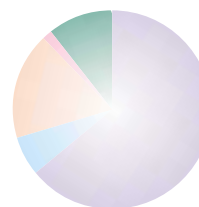
■ 金属加工事業

主要製品は、伸銅品（りん青銅、黄銅、洋白等の条及び銅箔）並びに特殊銅製品（アンバー、軟銅、ステンレス及びチタンの条）であります。

販売量は、主要需要分野である移動体通信機器・パソコン等IT関連需要の好調を反映し、りん青銅、リードフレーム用銅合金等を主に、前年同期に比べ大幅に増加いたしました。

これらにより、金属加工製品の販売量は、前年同期比12.8%増の3万4,552トン、売上高は、前年同期比6.3%増の233億33百万円となりました。

■ 事業別売上高構成比



（注）構成比率は、部門間取引で発生した内部売上高を含めて算定しています。

■ 精密加工事業

主要製品は、金めっき条等の電子部品めっき製品であります。

電子部品めっき製品の販売量は、移動体通信機器・パソコン等のIT関連需要が期を通じて好調に推移したため、前年同期に比べ大幅に増加いたしました。

これらにより、精密加工事業の売上高は、前年同期比19.7%増の20億59百万円となりました。

環境リサイクル事業部門

主要事業は、産業廃棄物の無害化・減容化処理、有価金属のリサイクル及び非鉄金属スクラップの集荷であります。

廃油、廃液等の産業廃棄物を高温熱分解処理する回転式焼却炉の処理量は、増集荷に努めた結果、前年同期比5.1%増の3万75トンとなりました。スラッジ等の産業廃棄物の高温溶融処理及び有価金属回収を行うリサイクル炉の処理量は、前年同期並みの2万1,767トンとなりました。リサイクル炉は、本年10月、酸素富化によるスラッジ等の増処理を開始いたしました。

非鉄金属スクラップの集荷は、銅系、貴金属系いずれも堅調でありました。

以上により、環境リサイクル事業部門の売上高は、増集荷、増処理を反映して前年同期比18.6%増の142億13百万円、営業利益は、産業廃棄物の増処理等により、前年同期比27.3%増の4億76百万円となりました。

“非鉄金属はハイテクノロジーの源です 今日のITを支える当社のトップシェア製品”

熱や電気の伝導率が高く、耐蝕性や加工性に優れる非鉄金属。電線をはじめ、パソコン、携帯電話、自動車などの電子部品として広く人々の生活に使用されています。

当社はわが国における「銅のトップメーカー」であると同時に、近年のIT需要を支える「電子部品素材メーカー」でもあります。市場ニーズを先取りした高機能・高品質製品はユーザーから高い評価を受けています。

例えば今注目のハイビジョンテレビやパソコン用モニターなどの高精細映像を実現するブラウン管用シャドウマスク向けアンパー材。そして、電子回路部品用のフレキシブルプリント基板（FPC）向け圧延銅箔や端子・コネクタ向けのりん青銅、金めっき条など。いずれもこれからのエレクトロニクスの進展を支える電子部品素材として高いシェアを獲得しています。

緻密で豊かな表現力を実現するブラウン管には当社のシャドウマスク向けアンパー材が使われています。さらに、そのブラウン管内に電子ビームを照射するブラウン管用電子銃も当社の代表的な製品です。



シャドウマスク向けアンパー材

ブラウン管用電子銃



ハイビジョンテレビ



FPC用圧延銅箔 りん青銅（コネクタ向け、電子部品用）

ハイビジョンテレビに欠かせないデコーダーやチューナーなどの電子回路部品には、当社のフレキシブルプリント基板向け圧延銅箔が使われています。また無数にある内部のコネクタ、ジャック、スイッチ類にも当社のりん青銅が使われています。

当社1位 = 、3位以内 =

	主要製品	主な用途	国内シェア
金属事業	銅製錬		
	銅	電線、伸銅品等	
	硫酸	肥料、繊維、無機薬品等	
	金	電気・通信機械部品、歯科医療、装身具等	
	亜鉛製錬		
金属加工事業	亜鉛	亜鉛めっき、伸銅品、亜鉛ダイカスト等	
	インジウム	電子材料、低融点合金、歯科用合金等	
	[伸銅品]		
	りん青銅	コネクタ、スイッチ、電子部品用ばね、半導体リードフレーム等	
	圧延銅箔	フレキシブルプリント基板、リチウムイオン2次電池電極板等	
	洋白	水晶振動子ケース、コンデンサ、電子部品用ばね等	
	特殊銅合金	半導体リードフレーム	
	[特殊銅製品]		
	ガンバツ用	ブラウン管用電子銃、	
	ステンレス	電池部品、各種電気部品等	
	アンパー	産業用ディスプレイ管シャドウマスク（中・大型）、民生用大型ブラウン管シャドウマスク等	
軟銅	産業用ディスプレイ管シャドウマスク（小型）、民生用ブラウン管シャドウマスク等		
精密加工			
金ストラライブめっき条	パソコン、携帯電話等用の端子、コネクタ、スイッチ等の電子部品、半導体テスト機器に使用されるソケット等		

TOPICS 銅製錬事業関連製品の共同販売会社を設立

当社は、三井金属鉱業(株)との間で、銅製錬事業における包括的な業務提携を推進することで合意し、本年10月、その一環として、銅製錬事業関連製品(主要製品は電気銅及び硫酸)の共同販売会社、パンパシフィック・カッパー株式会社を設立(出資比率:当社65%、三井金属鉱業35%)いたしました。同社は、平成13年1月から営業開始の予定であります。新会社の電気銅販売量は年約45万トン(国内シェア約35%)、硫酸販売量は年約58万トン(国内シェア約29%)であります。当社及び三井金属鉱業(株)は、今後、新会社を通じたきめ細かな顧客サービス、効率的な製品デリバリー等に努めるとともに、原料調達から生産、製品販売、さらには共同研究開発、共同資源開発等、広範にわたる業務提携により、銅製錬事業の競争力強化を図ってまいります。

TOPICS 湿式製錬技術開発への取り組み

非鉄金属資源の有効活用、より効率的な生産、地球環境との調和促進等の観点から、湿式製錬技術(新製錬技術)の開発に積極的に取り組んでおります。当社が開発に参加してきたインテック法による浸出技術を基本とする初生硫化銅鉱を対象とした湿式製錬プロセス実用化の開発を、本年10月、三井金属鉱業株式会社と共同で、官・学の協力を得て開始いたしました。

TOPICS 金属加工事業における高品質・高付加価値製品への戦略的特化

金属加工事業においては、市場の高機能・高品質要求への対応と利益率重視の観点から、従来の一般汎用品中心から高付加価値製品への戦略的特化を推進してまいりました。今後も、電子部品の一段の小型化・低価格化ニーズ並びにITの急速な成長に伴う需要の変化に対応して、製品の「薄物(箔)・高性能化」の技術開発を推進してまいります。また一般汎用品については、東アジアを中心とした海外への生産委託を推進してまいります。

■ 貸借対照表(個別)

(単位:百万円)(単位未満切り捨て)

科目	平成12年3月期 (平成12年3月31日現在)	平成12年9月中間期 (平成12年9月30日現在)
(資産の部)	(250,257)	(250,063)
流動資産	100,840	101,868
固定資産	149,240	148,062
繰延資産	176	132
資産合計	250,257	250,063
(負債の部)	(176,798)	(172,976)
流動負債	127,369	125,075
固定負債	49,429	47,900
(資本の部)	(73,459)	(77,087)
資本金	34,997	34,997
資本準備金	9,405	9,405
利益準備金	601	697
剰余金	28,455	31,987
負債及び資本合計	250,257	250,063

■ 損益計算書(個別)

(単位:百万円)(単位未満切り捨て)

科目	平成11年9月中間期 自平成11年4月1日 至平成11年9月30日	平成12年9月中間期 自平成12年4月1日 至平成12年9月30日
売上高	110,895	119,218
営業利益	7,088	9,368
経常利益	6,393	8,654
税引前中間純利益	6,298	7,827
中間純利益	3,683	4,586

■ 事業の種類別セグメント情報(連結)

(自 平成12年4月1日 至 平成12年9月30日)

(単位:百万円)

	金属事業	金属加工	環境リサイクル事業	エンジニアリング・コンサルティング事業	その他の事業	計	消去又は全社 (内部売上高)	連結合計
売上高	99,512	30,470	15,256	10,899	16,110	172,247	27,366	144,881
営業損益	4,719	4,928	476	15	416	10,524	—	10,524
減価償却費	2,973	1,511	280	74	217	5,055	—	5,055
設備投資額	1,317	1,276	247	206	934	3,980	—	3,980

■ 連結貸借対照表

(単位:百万円)(単位未満四捨五入)

科目	平成12年3月期 (平成12年3月31日現在)	平成12年9月中間期 (平成12年9月30日現在)
(資産の部)	(311,691)	(315,935)
流動資産	119,257	120,996
固定資産	188,477	194,729
繰延資産	265	210
為替換算調整勘定	3,692	—
資産合計	311,691	315,935
(負債の部)	(221,583)	(217,371)
流動負債	142,372	139,342
固定負債	79,211	78,029
(少数株主持分)	(3,652)	(9,351)
(資本の部)	(86,456)	(89,213)
資本金	34,997	34,997
資本準備金	9,405	9,405
連結剰余金	42,054	46,949
為替換算調整勘定	—	2,138
負債、少数株主持分及び資本合計	311,691	315,935

■ 連結損益計算書

(単位:百万円)(単位未満四捨五入)

科目	平成11年9月中間期 自 平成11年4月1日 至 平成11年9月30日	平成12年9月中間期 自 平成12年4月1日 至 平成12年9月30日
売上高	133,109	144,881
営業利益	8,006	10,524
経常利益	6,326	11,364
税金等調整前中間純利益	6,368	10,324
中間純利益	3,361	5,855
連結剰余金中間期末残高	37,892	46,949

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)(単位未満四捨五入)

科目	平成12年9月中間期 自 平成12年4月1日 至 平成12年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,928
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,045
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,029
現金及び現金同等物に係る換算差額	83
現金及び現金同等物の減少額	2,063
現金及び現金同等物の期首残高	5,839
現金及び現金同等物の期末残高	3,776

会社概要

(平成12年9月30日現在)

資本金 34,997 百万円
従業員数 1,592 名
本店 東京都港区虎ノ門二丁目10番1号
www.nikko-metal.co.jp
支社/支店/営業所 大阪支社(大阪府)
名古屋支店(愛知県)
九州営業所(福岡県)
事務所 オーストラリア事務所
チリ事務所
事業所 日立工場(茨城県)
佐賀閼製錬所(大分県)
倉見工場(神奈川県)
重要な子会社 日韓共同製錬株式会社
ニッポンマイニング オブ ネザーランド社
豊羽鉱山株式会社
日本マリン株式会社
日鉱商事株式会社
株式会社日鉱物流パートナーズ
株式会社日鉱ポリテック

役員

(平成12年10月1日現在)

代表取締役会長 坂本 卓
代表取締役社長 賀川 鐵一
常務取締役 宮澤 三郎
常務取締役 大木 和雄
取締役 野上 一治
取締役 遠藤 一郎
取締役 木原 徹
取締役 清水 康行
取締役 久留嶋 毅
取締役 佐藤 啓一
監査役(常勤) 小林 壯太
監査役(常勤) 池田 致
監査役(常勤) 上田 健次
監査役 高萩 光紀

株式の状況

発行済株式の総数 229,544,206 株

株主数 6,833 名

大株主一覧

株主名	持株数(千株)	持株比率
株式会社ジャパンエナジー	132,240	57.60%
株式会社日本興業銀行	5,000	2.17%
東洋信託銀行株式会社(信託勘定A口)	4,768	2.07%
三菱信託銀行株式会社(信託口)	4,212	1.83%
株式会社さくら銀行	3,990	1.73%
プログレシブ ペンション マネジメント エルビイ(ネンキンフクシジイギョウダングチ)	3,041	1.32%
中央三井信託銀行株式会社	2,900	1.26%
ドイチエ信託銀行株式会社	2,411	1.05%
株式会社三和銀行	2,400	1.04%
株式会社第一勧業銀行	2,300	1.00%
日産火災海上保険株式会社	2,200	0.95%
株式会社東京三菱銀行	2,000	0.87%
農林中央金庫	1,900	0.82%
エイチエスピーシーインターナショナル トラスティーリミテッド	1,702	0.74%